



政治の 季節



川崎ゆきお

「季節外れの暖かさ、というのはだめですなあ」

「そうですか」

「季節外れの寒さもだめです」

「でも、それは人の力では何ともならないでしょう」

「そうですなあ。しかし物事には旬がある。この旬は季節なのですが、自然界の季節ではなく、人々の気分的な旬もあります。野に湧き出る機運とかです。この野とは野原じゃなく、全国各地のことでしょう」

「民意というやつですか」

「民意なんて、どうとでもなります。それに民って、何ですか、支配されている人々のことでしょ」

「国民とか、人民の民だと思いたすが」

「いや、民とか市民とか言い出すと胡散臭い」

「はい」

「国民の半数以上が賛成しているとしましょう。これを民意のすべてが賛成しているわけではないので、反対している人が半数近くいることになり、民意なんて表していません」

「民意って何でしょう」

「民の中にも意見のない人もいます。この場合、意見とは何かと言うことになります」

「難しそうな話ですねえ」

「確かに民意的な野の声のような、沸き立つような熱気があるかもしれませんが、これには戒めの言葉が色々あります」

「たとえば」

「付和雷同」

「はい」

「意見を言うには、それなりに調べた上でないとだめでしょう。しかし、そこまで根気よく調べる人は少ない。物事が分かった上でないと、意見など言うのはだめでしょ。さらに調べると、事情が分かり、何とも言えなくなったりします」

「だめが多いですねえ」

「お上の言うことに対しては、賛成するより、反対する方が格好がいい」

「うちの女将に対しては、私は絶対に反対しません」

「はあ」

「ああ、いいです」

「ただ、旬があります」

「はい」

「この旬は、今の季節に飽きてきたときに来ます。退屈なので、刺激が欲しい。ちょっと別のものが見たい。その程度のことを、大きな意味があるように言う輩が多い」

「誰でしょうか。田中さんのことですか」

「いや、村田さんのことです」

「村田さんは革新派で、進歩的で、反対ばかりやっている人でしょ」

「あれは、ポーズです」

「ほう」

「そろそろ、うちの会も政権交代の時期なので、それが狙いでしょう。今のうちから態度を表していれば、いずれ吸引力となり、受け皿になります」

「政権と言いますか、会長や幹部が入れ替わる可能性が近いのですか」

「はい、その兆候が出ています」

「そうなんです。今の会は腐敗しきっている」

「いやいや、私もあなたも、その恩恵を受けているはずですよ。だから、うかつにクーデターは起こせません」

「そうなんですよ」

「今より、実入りが減ると困りますからねえ。そのあたりの担保がないと、動けません」

「その時期はいつでしょうか」

「もっと不満を言い出す人が増えてからでしょう」

「はい」

「不満を言い出す人は、どんな組織にいても言い出すものです。これを意見と言ってますが、取り分の問題でしょう。犬がえさが欲しいので、キャンキャン吠えているのです。お里が知れます」

「じゃ、意見とは」

「だから、これは藪蛇になるので、綺麗事を言いすぎると、首を絞めます」

「じゃ、汚い事の方が合っているのですね」

「裏で、そういう密約ができ、取り分の妥協点が見つければ、クーデターは出来ます。今のリーダーを追い出すには、その配慮さえ誰かがやれば、落ちます」

「いつですか」

「さあ、それは来ないかもしれませんねえ」

「どうしてですか」

「名分が弱いのです」

「えさの取り合いですからねえ」

「そうです。だから、それを隠すためにも、筋の通った意見が必要なのですが、その作文がなかなか難しい」

「じゃ、無理ですか、政権交代は」

「いや、うちの会はなし崩し的に変わるのが通例です。今回も何となく入れ替わるんじゃないですか」

「じゃ、今反対している人達が天下を」

「いや、あの人達じゃなく、色目が分かりにくい人がとりあえずリーダーになるはずですよ。その繰り返しですから、ここは」

「新リーダーの方針は」

「そんなもの、ありません。その人はただの調整役でして、その後、また違う人がリーダーになります。しばらく、短期政権が繰り返され、回り持ちのようになります」

「じゃ、意見や論争は何だったのですか。闘争もありましたよ」

「ガス抜きです」

「はい。しかし、お隣の会では、クーデターが起こり、新政権が発足しましたよ」

「すぐに腐敗するでしょう」

「はあ」

「だから、あなた」

「はい」

「下手なものに便乗しない方がよろしいですよ」

「しかし、私にも意見があります」

「それは机上論でして、現実はその狭いところでは動いていません。または広すぎるかです」

「よく分かりません」

「物事をやるのはいいのですが、政治をやるのはおやめなさい」

「どうしてですか」

「政治など道楽者がすることですから」

「いえ、正義感で」

「それがそもそも道楽なのです」

